

2018年3月22日（木曜）

## 全労金2018春季生活闘争ニュース・第13号

### 第3回全国書記長会議を開催し、 回答期限日に向けて粘り強く闘うことを確認しました！

◎ 3月20日、第3回全国書記長会議を開催しました。

3月20日（火）、全労金は、前日の中央闘争委員会に続いて、全単組の書記長参加の下、第3回全国書記長会議を開催し、連合の情勢、協会・全国労金の動向等を報告することとあわせて、各単組の要求内容とこれまでの交渉状況を共有し、「第三次交渉期間」以降の闘いの進め方を確認しました。



各単組の特徴的な交渉状況としては、金庫を取り巻く環境は厳しいものの、単組の要求内容を金庫・事業体が真摯に受け止めたうえで、職員の奮闘を高く評価し、次年度以降の業務推進を見据えた前向きなスタンスで交渉に臨んでいると報告されています。一方で、労働組合が全組合員の総意で確立した要求であるにも関わらず、要求に向き合おうとせず、経営環境の厳しさを一方的に主張し、「原資を伴う要求には応えられない」「労金業態の賃金は、地域金融機関と比較しても低くはない」「法を上回る対応の必要性を感じない」等、労働組合の要求主旨を理解していない発言を繰り返し、不誠実な対応を続ける金庫も報告されています。

私たちが掲げた方針・要求は、将来の生産年齢人口の減少やダブルケア問題等、誰もが自らの生活と仕事を両立する世の中が目前に迫っていることとあわせて、日銀の金融政策や第4次産業革命・フィンテック等のデジタル化の進展といった私たちを取り巻く環境変化に対し、役職員が一体となって厳しい環境を乗り越えるために掲げた要求です。また、私たちの春季生活闘争における取り組みは組織内だけでなく、連合運動を通じて広く社会に波及させてことにより、日本社会全体の活性化（※経済の自律的成長を促す）に繋げていく「将来（未来）への責任」を果たすために掲げた最低限の要求です。

本日以降、単組の交渉は最終局面に向かいます。私たちは、14単組が「統一闘争」の旗の下で掲げた要求に自信と確信と誇りを持つとともに、連合に結集する仲間との「共闘」を意識して、引き続き、全労金に結集する全ての組合員が一丸となって、最後まで粘り強く闘いを進めましょう！

**3月23日（金）は「全国一斉職場集会」の開催日です！**

以上